

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

まずコミュニケーションにおいて、^aキホンのことは何かというと、A ことより

B ことが先、ということです。私たちがこの世に生まれ落ちたときのことを考えてみましょう。人間は最初から言葉を話せたわけではありませんね？ 人の話を繰り返して聞いて、それでようやく話すようになる。

社会というのは、自分が生まれ落ちる前にもう出来上がっています。他人は自分に関わりなく生きています。その他人のことを知って、社会の中に自分が加わっていくために、赤ん坊は人の話を聞いています。

自分が社会や世界を作っているわけではないのです。そこを勘違いしてはいけません。たしかに自分の頭の中では自分のワールドが^bソーンザイしていますが、社会はそれとは別に動いています。ですからそこをきちんと^cリカイして、どういう角度でそこに入っていけばいいのか、ということこを小さい頃から学ぶわけです。

赤ん坊を取り巻く環境にはまず両親があります。そして、その両親を取り巻く環境もあります。^①その中に生み落とされ、赤ん坊はすべてを聞いて育ちます。その際、何をどのように聞くかによって、話す言葉や話し方が違ってきます。

C、日本人の両親の子供なら日本語を話す子になるでしょうし、知的な両親の子供なら、^dロソリ的な話し方をする子になるかもしれません。聞くという環境で得られたことが、やがて話す内容につながっていく、という^eジューンジョになります。まず^②それが、本質的な「話す」と「聞く」の関係です。

B ほうがA より先である、という理由はそれだけではありません。世の中には聞きたがりの人より、話したがりの人の方が圧倒的にたくさんいます。ということは、聞いてくれる人の方が希少価値、つまり世の中で^③需要があるといえます。

小学生を教えていつも面白いと思うのは、授業で小学生向けの本を読むと、子供たちは家に帰って、必ずお母さんにそのことを話すのだそうです。「今日読んだ本はこういう話で、こんな事が書いてあったよ」と話す。お母さんはちゃんと聞いてくれます。もしこれが話を聞

かないお母さんだと、その子はだんだん本を読まなくなります。

ですから、お母さんが話を聞いてうなずいてくれて、「ああ、よく読んだね」という風に、応答することが大切です。そのことによって、子供はやる気を出しどんどん話す。何度となく話しているうちに、話すことが上手うまくなっていくわけです。

D、話し上手になっていくためのきっかけを作ってくれるのは、お母さんのようなソ
ンザイです。安心して話せる相手。途中で話をさえぎったり、否定したりしない。時間も自由
にしゃべらせてくれる。そんなソンザイが必要なのです。

子供の話し方を注意するお母さんもいるかもしれませんが、私は小学校の低学年くらいまで
は、^④長々と話していてもいいと思います。文章が切れずに、「えっとね、えっとね」「それで
ね、あとね」と話す時期があってもいいでしょう。

なぜなら、延々えんえんと話すのは気持ちがいいことだからです。話しているときは、脳が働き、体
全体も高揚感※こうようがあつて、自己表現ができている状態です。ちょうどエネルギーの燃焼感のよう
なものがあつて、ちょっと気分がハイになります。つまり自分自身に酔ようことができるので
す。酔わせてくれる相手が聞き上手な人といってもいいでしょう。

E 大人になって聞く側になってみると、ただ聞いているだけというのは、なかなかつ
らいものがあります。相手が非常に面白い、意味のある話をしてくれる場合は別ですが、小学
生のように繰り返しが多く、何を言いたいのかわからないような場合は、よほど親密な人かプ
ロでなければ、じっと聞いているのは苦痛です。プロというのはカウンセラーのような職業の
人のことをいいます。相手に上手に話させることによって、相手が落ち着き、自分自身で課題
を見出していく。自分で自然と問題を克服※こくふくしていくというのが、ノンディレクティブなタイプ
のカウンセリングの手法です。

ノンディレクティブとは、指示を与えないこと。すなわち「こうしなさい、ああしなさい」
と言わないタイプのカウンセリングで、臨床心理学者のカール・ロジャースが生み出した手
法です。カウンセラーが「それはそうではないでしょう」とか「あなたの言っていることはお
かしいですよ」と返したら、相談者はもう話す気がなくなってしまいます。聞き上手になるに
は、そうした^⑤お母さんの、カウンセラー的な態度が必要です。

※希少…少なくて珍しいこと

※需要…社会の中で必要とされること

※高揚…気分などを高めること

※克服…努力して困難に打ちかつこと

※臨床…びようしやう病床にのぞむこと

(齋藤 孝『話し上手 聞き上手』)

問一 わ～部 a～e のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 空らん [A]・[B] には「聞く」「話す」のいずれかの言葉が入ります。「聞く」が入る場合はア、「話す」が入る場合はイと答えなさい。

問三 空らん [C]・[D]・[E] にあてはまる言葉としてふさわしいものを次のア～エの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア なぜなら イ ところが ウ たとえば エ つまり

問四 — 部①「その中」とありますが、何の中ですか。本文中の言葉を使って答えなさい。

問五 — 部②「それ」の指す内容を本文中から三十一字で抜き出し、最初の五字を答えなさい。

問六 — 部③「需要がある」とありますが、何の需要があるといっていますか。本文中よりあてはまる部分を、七字で抜き出して答えなさい。

問七 — 部④「長々と話していてもいいと思います」とありますが、それはなぜですか。その理由が書かれている部分を探し、二十字以内で抜き出して答えなさい。

問八 ―― 部⑤「お母さんの、カウンセラー的な態度」とありますが、「お母さんの」な態度が具体的に書かれている一続きの二文を探し、最初と最後の五字を答えなさい。

問九 本文の内容にあうものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 世の中には、話したがりの人より聞きたがりの人の方が圧倒的に多い。

イ 自由に話をさせてくれるようなソンザイがいることで、話すことがうまくなる。

ウ 相手に上手に話させながら、こちらから指示を出すことが必要である。

エ 話す言葉や話し方が違ってくるのは、大人になってからの環境の影響が大きい。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「おはよう！」

「遅いよ、結花」

「宿題見せてー」

麻衣はにこにこして、私に手を振っている。チェリーピンクのくちびるが声を出さずに、「お・は・よ・う」と動く。私の目にだけ聞こえてくる再会の挨拶。昨日の放課後から会っていないんだものね。懐かしい。

「ねえ。早く！ ノートは？」

モモンガが大きな声で言った。彼女は声もでかいが、からだもでかい。桃子なんていうかわいいい名前が似合わないから、モモンガでいいよ、と自分から言いだして、そのさばさばした性格が男子にも受けている。

私は自分の机に戻って、黄色いラバーダックの写真が表紙のノートを取りだし、みんなに見せた。実は、数学は私の得意教科。数字や図形に集中していると、パズルやゲームをやっているみたいで楽しい。でも、宿題は、やっぱり嫌だけれど——無理やり押しつけられている感じが鬱陶しいんだもの。

モモンガと耀ちゃんは数学が苦手で、毎回、私のノートを当てにしている。ふたりがテンションを上げて、答を書き写しているあいだ、私は麻衣に耳打ちした。

「高田くん会っちゃった。一緒に登校しちゃった」

「そう？」

彼女の顔がぱつと輝いた。高田くん、と耳にただだけで、麻衣は嬉しそうにする。

「なんか、麻衣から聞いていることになってるの、私？」

「えっ」

「ミチオくんって？」

「……ああ」

急に微妙な表情になった。くちびるを薄く開いて、眉を寄せて。どうして？ 話を訊きだす

前にチャイムが鳴った。

雨の校庭には、だれもない。

① 木々の緑が濡れて、気持ちが悪そう。土もしつとりと濃い色になっている。私は授業中もついぼんやりして、外を眺めてしまう。静かな教室で、先生の声を聞きながら、机に頬杖をついて。

窓際の席だと嫌いな授業でも退屈しないでいられるから好き。単調な雨音にのせて、ときおり、途切れ途切れに頭の中でメロディが流れる。モーツアルトのメヌエットだ。

ピアノのレッスンに通っていたころ、弾かされた曲——② 〈弾かされた〉なんて言い方をしってしまうこと自体、なんだか嫌なのだけれど、私は四歳から十一歳までピアノを習っていたあいだ、いつのころからか、ちっとも好きじゃなくなってしまったのだ。ピアノも、楽譜も、自分の指も。

ピアノは私が望む音を出してくれなかった。楽譜は美しい曲を表すには、あまりに無愛想な見てくれた。そして、私の指はとてもぶきつちよだった。自分から進んで、というよりは、母から勧められて始めたおけいこことだったせいだろうか、なんだか夢中になれなかった。

「もう、やめたいの」と意を決して言いだすとき、ずいぶん、びくびくしていたのに、

「そう？ やる気がないなら、しょうがないわね」

彼女はあつさりと答えた。叱られなかったことで、私はますます落ちこんだ。③ 自分はどうしようもなくダメな子なんだと思っちゃった。

たぶん、母はすぐぐがっかりしたに違いないけれど、それを顔にも言葉にも出さず、

「また弾きたくなったら、弾けばいいわよ」とおだやかに言ってくれたことが、ちよつとだけ救いになったかな？

④ せっかく買ってもらったピアノは、リビングルームの隅にレースのカバーをかけて置いてある。だれも弾くひとのいない、かわいそうなピアノ。黒くて、つやつや光っている。ペダルは金色。

⑤ たまに私はその蓋に触ってみることがある。ひんやり冷たい。蓋を開けて、鍵盤をそつたたいてみたりもする。白い鍵盤。黒い鍵盤。楽譜もそうだけれど、モノトーンなんだよね。

きつぱりと清潔で、中途半端^{ちゆうはんぱ}な心のひとを寄せつけない雰囲^{ふんいき}がある。そういうのを威厳^{いげん}というのかしら？

ピアノを始めたばかりのころは、^⑥そうじゃなかった。はじめて手渡^{てわた}された楽譜^{おんぷ}の音符^{おんぷ}には、七つの色が楽しそうに踊^{おど}っていた。ド。レ。ミ。ファ。ソ。ラ。シ。それぞれの音に、ひとつずつ色がついていたのだ。ドは何色だったわけ？ レは何色だったわけ？ もう憶^{おぼ}えていない。

憶えているのは、ソが X だったこと。だから、私は今でも、薄青く晴れた空を見上げるたびに、ソの音を感じる。伸びやかで、透^すきとおっていて、どこまでも遠く響^{ひび}く音。

ピアノは奏^{そう}でるひとによって、まったく違う音を出す。私は澄^すんだ、きれいな音が出せなかった。そのことが悲しくて、ピアノに向かい続けることができなくなった。モノトーンの鍵盤^{あざ}、モノトーンの楽譜^{あざ}から、色鮮やかなメロディを導^{あざ}きだす力が、私にはないんだ、とあきらめた。それって弱虫^{じやくちゆう}すぎただろうか。もつとがんばるべきだっただろうか。

なにか可能性^{ひかり}みたいなものを――

私は自分から捨てちゃったんだろうか。

「ごめんね」と、だれかに謝^{あやま}りたくなる。

雨はしとしと午前中いっぱい降り続け、麻衣と私はお昼休みに、やっとふたりだけで話すことができた。廊下^{ろうか}の端^{はし}に私を引^ひつ張^はっていった、彼女は小さな声で言った。

「ねえ。さっきのことだけど……」

(野中柊『ひな菊とペパーミント』)

問一　　部A「耳打ち」、B「意を決して」の意味としてふさわしいものを、次のア～エの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

A 耳打ち

B 意を決して

ア 軽くはじくこと

ア 相手の意見を聞かないこと

イ ささやくこと

イ 予定を変えないこと

ウ いらだちを表すしぐさ

ウ 決着をつけること

エ うわさ話をする事

エ 思い切る事

問二　　部①「木々の緑が濡れて、気持ちがよさそうだ」に使われている表現技法と同じものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア それにしてもきれいだな、この山の自然は。

イ 空はどこまでも高く、海はどこまでも広い。

ウ 私が委員長にふさわしいと思うのは、やっぱり山田さん。

エ テストが終われば、夏休みが私たちを待っている。

問三　　部②「弾かされた」なんて言い方をしてしまうこと自体、なんだか嫌なのだけけれど」とありますが、それはなぜですか。次のア～エの中からもっともふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 言葉にしてしまうと、自分がピアノを習わされていたときの悲しさを思い出してしま
いそうだから。

イ 大好きだったモーツアルトの曲を、嫌だったピアノの思い出でよごしてしまうような
気がしたから。

ウ きれいな音も出せたはずのピアノを、自分からあきらめてしまったことに申し訳なさ
を感じているから。

エ ちっとも好きではないピアノを親に言われて弾かされていたころのことは、思い出し
たくもないから。

問四 — 部③「自分はどうしようもなくダメな子なんだと思っちゃった」とありますが、それはなぜですか。理由を説明した次の文章の空らんにあてはまる言葉を、本文中から指定された文字数で、それぞれ抜き出して答えなさい。

ピアノを止めたいと言いだしたら、母親から **ア** (三字) と思っていたため、
イ (四字) しながら言ったのだが、 **ア** (三字) なかったので、かえって、自分は
そんなこともしてもらえない子なのだと思ってしまったから。

問五 — 部④「だれも弾くひとのいない、かわいそうなピアノ」とありますが、なぜ「私」はこのように思うのですか。次のア～エの中からもっともふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア どんなにきれいな音が出せても弾く人がいなければ意味がないと、投げやりな気持ちでいるから。
イ せっかくあるのだから、だれかが弾いてあげればいいのにと、もどかしく思っているから。
ウ かつては自分が弾いていたが、自分はもうこのピアノに向き合う気持ちを持てなくなってしまったから。

エ 自分は一度ピアノを弾くことをあきらめてしまったが、いつかまた弾いてあげたいとひそかに思っているから。

問六 — 部⑤「白い鍵盤。黒い鍵盤」とありますが、これらと対比して描かれているものを本文中から十字以内で抜き出しなさい。

問七 — 部⑥「そう」とは、何がどのような状態であることですか。本文中の言葉を使って説明しなさい。

問八 空らん **X** にあてはまる言葉を漢字二字で答えなさい。

問九 本文で、「私」の母親はどのような人物として描かれていますか。次のア～エの中から
もつともふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 物事を簡単にあきらめてしまう「私」の性格をリカイし、「私」に期待をしない人物。
イ 「私」が不安なとき、はげまし支えてくれる、「私」にとってかけがえのない人物。
ウ 「私」がいつかまたピアノを弾き始めてくれたらうれしいと待っている気長な人物。
エ ピアノをやめたいと言い出した「私」の気持ちを否定せずに受け止めてくれる人物。

問十 本文で、「私」と麻衣の関係はどのように描かれていますか。次のア～エの中からもつ
ともふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 他にも仲のいい友だちはいるが、会えない時間を長く感じるほど、とびぬけて仲がよ
い関係。

イ 互いに信頼し合っており、「私」が悩んでいたピアノのことも、すぐに相談すること
ができる関係。

ウ とても仲がいいが、麻衣には「私」が聞いても教えてくれないこともあり、立ち入れ
ない部分もある関係。

エ 仲のいい親友だが、麻衣が「私」の宿題を写すなど、小さな上下関係が生まれつつあ
る関係。

三

次のそれぞれの問いに答えなさい。

問一 次のそれぞれの熟語を、(例)にしたがって熟語の漢字を二字とも用いた、簡単な一文に改めなさい。

(例) 着席 … 席に着く。

- ① 読解 ② 加害 ③ 形成 ④ 登山 ⑤ 無味

問二 次のそれぞれの説明にふさわしいことわざ・慣用句(日常の習慣に使われる言葉)を、

(例) にしたがって指定された文字で始まる言葉で答えなさい。

(例) 気づかないふりをして見逃すこと …

めをつぶる

- | | | | |
|---|---|---|---|
| ① | もともと強いものが、さらに強さを加えること。 | … | お |
| ② | その道の名人でも失敗することがあること。 | … | こ |
| ③ | 時間は貴重なので無駄 <small>むだ</small> にしてはならないということ。 | … | と |
| ④ | 本性をかくして、大人しそうにふるまうこと。 | … | ね |
| ⑤ | 人目に知られないで努力、下支えをすること。 | … | え |